

令和5年度 北越高等学校 学校自己評価表（結果）

学校運営計画						
《学校運営方針》 建学の精神、教育目標、教育方針に基づいた学校運営		《建学の精神》 「報恩感謝」「勤労奉仕」 《教育目標》 「知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で人間性豊かな有意な人材を育成する。」 《教育方針》 1 学習内容を精選し、基礎的、基本的な学習の徹底した指導によって、学力の充実を図る。 2 生徒の適性、能力に応じたコースや科目の選択を通して、行き届いた進路指導を行うとともに、実践的な学力を養成する。 3 挨拶の励行等、人間としてのマナー・礼儀を重視し、規律ある生活習慣と態度を身につける。 4 部活動、特別活動を充実させ、健全な身体と進取の気性を養う。 《育てたい生徒像》 「社会との関わりの中で、自他の幸せと成長の為に自ら行動できる人」				
令和4年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標			
《成果》 ○ 大学等進学率78.0%、国立大学合格48名達成 ○ 学校生活全体を通じた生徒の生活習慣の改善 ○ 女子バスケットボール部：FIBA U17ワールドカップ日本代表に1名選出 ○ 女子ソフトテニス部：全国高校総体個人戦3位(新潟県勢58年ぶりの快挙) ○ 男子バドミントン部：全国高校選抜北越予選大会において新潟県勢初の3冠を達成 ○ 男子バスケットボール部：2年連続ウィンターカップ出場 ○ 写真部、書道部：「全国高等学校総合文化祭(東京大会)」出場 ○ 書道部：「新潟県高等学校総合文化祭」において「文化連盟賞」受賞。令和5年度「全国高等学校総合文化祭(鹿児島大会)」に推薦		I 確かな学力の向上	・「分かる授業」の実施 ・主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善 ・新しい大学入試に向けた確かな学力の定着			
		II 基本的な生活習慣の確立	・一日の生活リズムと学習習慣の確立 ・基本的な食習慣の確立 ・健康指導の充実			
		III 規範意識の醸成	・自他を大切にしている指導の徹底 ・校則の遵守 ・挨拶指導の充実			
《課題》 ・大学入学共通テストへの対応力の強化 ・新学習指導要領による令和7年度入試への対応 ・社会生活のルール、マナーの改善 ・服装や頭髪など身だしなみの向上 ・SNS等ネット利用における情報モラルの向上		IV 部活動、特別活動の充実	・合理的、科学的手法に基づいた部活動指導 ・生徒・保護者から信頼される部活動運営 ・生徒一人一人の成長が実感できる部活動			
評価項目	具体的目標	具体的方策			評価	
1学年	建学の精神「報恩感謝・勤労奉仕」のもと、育てたい生徒像の育成の土台を築く	キャリア教育や探究活動を通して、学校・仲間・社会・将来に関心が持てるように指導に当たる。			A	A
		学校行事を通して、生徒が人と関わることに喜びを感じられるよう、担任・副任共に指導に当たる。			A	
	生徒の基本的な生活習慣の確立	ホームルーム活動を充実させ、生徒との信頼関係を築き、すべての生徒に、居場所のある学校を目指す。			A	
		次のことができるよう指導に当たる。①笑顔で、元氣よく、相手の目を見て、自分から挨拶ができる ②時間を守る ③目標や計画を自分で立て、実行できる、④身の回りの整理整頓や清掃ができる ⑤服装・頭髪・身だしなみが正しく整えられる ⑥ボランティア活動へ積極的に参加できる ⑦社会や学校等のルールをしっかりと守る			A	
	生徒の基礎学力の充実および学力の向上	授業1時間1時間を大切にしている姿勢を養い、進路ガイダンスなどを通して、文理選択や将来の進路を考えさせる。			A	A
		学習活動に積極的に取り組みお互いに学び合う雰囲気醸成する。			B	
2学年	建学の精神を体現する生徒の育成および北越キャリア教育の充実	オリエンテーション行事、探究活動、学校行事、研修旅行、ボランティア活動などを通じて、地域や世界に視野を向け、将来どのような分野で社会に貢献していくべきか、考えを深めさせる。			A	A
	生徒の基本的な生活習慣の確立	挨拶の励行、校則と生徒指導のきまりを遵守する精神を醸成する。			A	
		担任・副任は、生徒と信頼関係を築き、生徒が主体的に学校生活を送れるよう努める。			A	
	生徒の基礎学力の充実および学力の向上	授業を大切に、土曜講座、長期休業中の講座、模擬試験、各種検定などを活用し、自己の進路を考えながらお互いに成長しあう雰囲気醸成する。			A	A
3学年	グローバルな視野を持ちながら地域に貢献できる人材の育成	1年次・2年次の探究活動をまとめ、社会とのつながりを意識し、進路実現に活かすことができるよう指導する。			A	A
		体育祭、文化祭、ボランティア活動への参加を通じて、集団内での役割意識や他者との協働性を育む。			A	
	生徒の基礎学力の充実および学力の向上	進路実現に向け、主体的に学習活動に取り組み姿勢を醸成する。			A	
		現役国立大学合格者50名以上、大学等進学率78%以上。			A	
	上級生らしい規範的な姿の確立	遅刻・欠席を減らし、規則正しい生活習慣を確立できるよう指導する。			B	B
		最上級生として校則と生徒指導のきまりを遵守し、落ち着いた学校生活を送るよう指導する。			B	
教務	生徒の学力向上のため、生徒の学習環境を充実させる	年間計画を立てる際に、授業時数が確保できている。			A	A
		教室の学習環境を整備し、授業に集中して取り組める環境をつくる。			B	
	生徒の学力向上のため、教員研修を充実させる	公開授業、研究授業を行い、また、年に2回の研修を通して教員がより良い授業を目指している。			B	
		教科部会を毎月開催し、年間を通して授業改善が行われている。			A	
	教育活動を充実させるため、教員の業務負担軽減	新校務支援システムの円滑な運用。			A	
		採点ソフトの円滑な運用と利用の推進。			A	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	時間の厳守（学年と連携して遅刻防止の推進、遅刻指導の徹底）			A	A
		正しい服装の徹底（学年・クラスでの推進・各授業での指導、服装頭髪指導の実施）			B	
	生活・交通安全指導の徹底	交差ルールの遵守（通学指導、登下校指導の徹底）			B	
		携帯電話・スマートフォン等の利用マナー教育の徹底（SNS使用時の情報モラルなど）			A	
	学校生活に対する悩みを持つ生徒への対応	いじめの未然防止と早期発見の徹底（いじめのない学校づくりの推進）			A	A
		学年・保健衛生部・臨床心理カウンセラーとの連携（生徒の悩みと早期に対応し、不登校等の予防を図る）			A	
進路指導	生徒の進路への意識の向上を図るとともに学習意欲を喚起する。	探究活動をより一層充実させ、国際貢献への意識啓発や上級学校での学問への意識を高めるよう指導する。			A	A
		計画的に進路志望調査を実施し、自分自身の将来を考えて自立した学習活動ができるよう指導を行う。			A	
	大学の内容や入試について適切な情報提供を行う。	生徒に対する進路ガイダンスや進路保護者会を工夫して実施し、適切な情報提供に努める。			A	
		LHR等や休業中に大学研究を行って、自分自身の進路について深く考えられるようにする。			A	
	大学等進学率78%以上 国立大学合格者50名以上を目指す。	各教科の学習指導に効果的な情報提供を行い、コースの実態に応じた適切な学習指導ができるように努める。			A	A
		基礎学力の定着を図るとともに、講座等を適切に運営し、志望校合格のための学力の向上に努める。			A	
入試広報	広報媒体を作成し、中学校・受験生・保護者に確実に届ける	学校案内やオープンスクールのチラシを発行し、新潟市内の全中学校に配布する。			A	A
		作成した広報媒体をHPやオープンスクールなどで活用する。			A	
	オープンスクールや高校説明会、入試説明会、部活動体験に適切な情報を提供する	オープンスクールの3回、入試説明会を2回、部活動体験を最低1回実施する。			A	
		入試説明会などを通じて、入試制度や北越の特色などを分かりやすく伝える。			B	
	入試業務の運営を適切に行う	入試業務を適切に分担し、円滑に運営できるような業務内容の改善・見直しに努める。			A	A
		中学校・受験生・保護者に誤った情報が届くようなミスを起こさずに確実に業務を遂行する。			A	

評価項目	具体的目標		具体的方策		評価	
国語	読解力・表現力を身につけさせる。	現代文・古典とも基礎事項の習得定着を図り、論理構成、心情、主題などを理解し表現できる力を養う。	A	A	A	
		小論文試験にも対応できるような、本文要約力、意見集約力、自己発信力を身につけさせるよう指導する。	A			
	新教育課程に適切した学力を育成する。	指導要領による新設科目について、本校の実状に合わせて適切に指導していく。	B	B		
		本校新教育課程の完成年度に向けて、トータルでの国語力の育成のあり方を試行していく。	A			
進路決定に向けた実力を身につけさせる。	授業や小テストによって語彙力、漢字力、読解力、表現力など国語力を養成する。	大学入学共通テストにおいて全国平均点を上回る学力を涵養する。	A	A		
			B			
地歴・公民	科目に興味を持たせる授業を行う	研究授業・授業改善研修を実施し、教科の取り組みと課題を共有する	A	A	A	
		各科目、授業評価アンケートでの授業に積極的に参加している項目で肯定的回答8割以上にする	A			
	基礎的・基本的知識を定着させる	定期考査での赤点者をゼロにする	B	A		
		授業評価アンケートでの学習内容の難易度の項目で肯定的回答8割以上にする	A			
実践的学力の向上を養う	校外模擬試験の各科目の平均偏差値を50以上にする	一般入試受験生の大学入学共通テストの各科目の平均点を全国平均を上回るようにする	B	A		
			A			
数学	指導内容の充実	新学習指導要領における評価の研究をし、新観点に沿って評価と指導の一体化に努める。	A	A	A	
		授業におけるICTの効果的な活用について研究に努める。	A			
	基礎学力の定着	課題や小テストを適切に実施する。	A	A		
		コース・クラスに応じて授業を展開する。	A			
実践的学力の向上	校外模擬試験で生徒の学力や実態を把握し、指導に活かす。	大学受験を目指す生徒に対する個別指導を充実させる。	A	A		
			A			
理科	授業内容を充実させる	各科目の指導方針、指導計画に沿った適切な授業を展開する。	A	A	A	
		実験や観察、グループ学習を取り入れ、生徒の好奇心を引き出す。	A			
	学力に応じた適切な指導を行う	公開授業や教員間での研修を取り入れ、授業におけるICTの効果的な活用について研究に努める。	B	A		
		各コース・各クラスに応じた授業を展開する。	A			
思考力・判断力を身につけさせる	模擬試験や過去の入試問題、実験などを通して、思考力・判断力を身につけさせる。		A	A		
			A			
教科	学習集団づくり	互いに認め合いながら学習ができる学習集団づくりができていた。	A	A	A	
		授業の系統性を考えシラバスに位置づけ狙いや目標を生徒に示した上で臨んだ。	B			
	目標の設定	生徒の実態を十分に考慮して授業を構成するなど計画をたてて行った。	A	B		
		授業のねらいや目標が達成できた。	B			
	教材・教具の工夫	準備した教材・教具や授業の展開のしかたは適切であったか。	A	A		
	発問・指導の適切さ	生徒の理解を助けるように発問や指示を適切に行った。	A	A		
	活動の場の構成	生徒は意欲的に学習に取り組んでいた。	A	A		
		授業に集中しやすい環境や雰囲気形成できた。	A			
		一方的な説明だけではなく生徒が主体的に活動する場面を設けた。	B			
	安全への配慮	生徒一人ひとりの健康状況を把握し事故がおきないように努めたか。	A	A		
個の学習の成立	生徒一人ひとりの学習状況の把握に努め必要な支援を行った。	A	A			
英語	基礎力を強化する	積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を養う。	A	A	A	
		中学校既習内容（文法・単語）を定着させる。	B			
	応用力、運用力を強化する	英語の4技能5領域の力をバランスよく伸ばすための学習方法を確立させる。	A	A		
		英検を中心とした外部試験や模試を利用して英語の運用力を高める。	A			
	英語を通して情報を整理したり、論理的・批判的に物事を捉える力を育てる。	B	A			
	プレゼンテーションやディベートを通して自分の考えを論理的に伝える方法を身につける。	A				
芸術	音楽	音を媒体としたコミュニケーション能力を向上させる	基本的な技能を身につけ、創造的かつふさわしい方法で演奏表現する力を身につけさせる。	A	A	A
			実技発表・楽曲鑑賞において、互いによさを見いだしたり、自分なりの解釈を伝える力を養う。	B		
	美術	自分なりの考えをもとに、イメージを表現する力を身につけさせる	用具を適切に扱い、試行錯誤しながら創造的に表現する力を伸ばす。	A	A	
		作品鑑賞を通して、自分なりの考えをもち他者と共有する場を多く設定する。	A			
	書道	基本的な技能を身につけさせる	多様な作品に取り組みせ、作品の性質を理解した制作活動を図る。	A	A	
			鑑賞を活かした技術指導を行う。	B		
家庭	授業内容の充実	授業進度、指導内容を綿密に打ち合わせる。	A	A	A	
		実習や実験を通じて生徒が主体的に学び、体験できる授業をつくる。	B			
	基礎学力の定着をはかる	小テストや学習ノートなどで基礎事項の理解と定着をはかる。	A	A		
情報	情報活用の実践力を養う	課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することができる。	A	A	A	
		情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造することができる。	A			
		受け手の状況などを踏まえて発信・伝達することができる。	A			
	情報の科学的な理解ができる	情報活用の基礎となる情報手段の特性を理解することができる。	A	A		
		情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法を理解することができる。	A			
情報社会に参画する態度を育てる	社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解することができる。	B	B			
	情報モラルの必要性に対する責任について考えることができる。	B				
	望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度が身につけることができる。	B				
総合評価					A	